

2025（令和7）年度課外活動奨励賞受賞者一覧

この賞は、様々な課外活動の分野で顕著な活躍をした学生（個人および団体）を、大学と後援会が共同して表彰することにより、広く学生全体の課外活動を奨励することを目的としています。

【 個人 】

氏名	所属	表彰内容・理由
富山 莉沙	英語文化 コミュニケーション学科 4年	2年次に松永幸子教員と渋谷コミュニティ F.M「渋谷のラジオ」渋谷社会部「長崎からみらいへ〜被爆講話と若者たち」に出演。長崎の被爆者と対談し、戦争や平和について意欲的に学んだ。3年次には、英語教師の思考力育成に関する研究成果を環太平洋応用言語学会で発表し、赤塚ゼミ生との共著論文が国際誌（Selected Papers of the 28th Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics, 2024, ISSN 2760-0904）に掲載された。社会福祉施設で介護ボランティアを行い好評を得た。4年次には、相模原市戦没者合同慰霊祭にボランティアとして参加し、その活動が新聞に掲載されるなど、地域貢献と本学の知名度向上に貢献した。
井上 暖乃子	健康栄養学科 4年	オープンキャンパス学生スタッフとして本学の広報活動に尽力し、参加回数は学生スタッフの中で最多であり、有志団体「学生企画 さがじょマスター」にも所属し、チームの中心となりクイズの考案からマニュアル作成まで担った。キャンパスツアーにおいても、来場者へのおもてなしの精神を先輩たちに受け継いでいくという意識のもと、後輩向け研修動画の制作にも取り組んだ。また、高等部卒業生として内部進学や大学生活についてプレゼンテーションを行うほか、地域貢献活動やクラブ活動など様々な、正課外活動の経験を通じて各種広報媒体への協力にも貢献した。

【 団体 】

団体名（所属学科）	表彰内容・理由
韓国 STEM 国際学会ボランティア （日本語日本文学科・子ども教育学科・社会マネジメント学科・健康栄養学科）	韓国 STEM 国際学会にボランティアで参加し、開催された韓国において、積極的に異文化交流を行い、現地大学生と協力して学会運営を支援した。さらに英語による学会発表を行い、その内容と活動は現場で非常に高く評価された。その結果、2026 年度 STEM 国際学会への招待や相模女子大学生の発表枠提案という形で認められ、今後も継続的な活動につながる事が期待されるものであり、大学の国際的評価に繋がった。
健康栄養学科 有志学生 『Sagami チャレンジプログラム』 プロジェクト団体 「もとみや SMILE プロジェクト」 （日本語日本文学科・社会マネジメント学科・人間心理学科・健康栄養学科・管理栄養学科）	福島県本宮市と協働し、本宮市民をもっと笑顔に、元気にしたい！という思いを持つ学生が集まったプロジェクトである。2024 年度より、地域農産物の魅力を活かした「野菜のなめろう」および「りんごドレッシング」の開発に取り組み、具材選定やレシピ、ラベル制作を学生主体で進めた。中間報告では市民の試食意見を反映し、改良を重ねて完成に至った。この商品は相生祭で販売され好評を得たほか、本宮市役所や直売所等での販売を通じて地域に貢献している。さらに、田植え・稲刈り体験や秋祭りへ参加することにより本宮の魅力を伝え、今年度、新設した「もとみや魅力発見ツアー」では本宮での生き方や働き方を体験・発信している。これらの活動は地域社会への貢献、本宮市の魅力を伝える意義深い活動である。
『Sagami チャレンジプログラム』 プロジェクト団体「復興支援学生 ボランティア委員会」 （英語文化コミュニケーション学科・メディア情報学科・社会マネジメント学科・人間心理学科・健康栄養学科・管理栄養学科）	本活動は、2011 年 6 月の東日本大震災後、岩手県大船渡市での炊き出しボランティアを契機に発足し、当初は被災者の心のケアを中心に行われた。現在は「震災の記憶を後世に伝える」、「大船渡市の魅力を発信する」の 2 本柱で活動を展開している。2025 年 2 月の林野火災後には、大船渡スイーツ販売や学内募金で支援を行い、義援金を大船渡市長に届け、防災学習や SNS 発信を利用し災害の状況を伝えた。また、市内菓匠とのコラボ商品を相生祭で販売、市内保育園や相模女子大学幼稚園で「椿の学校」という独自の教育プログラムを通じて、子どもたちに震災や、椿の魅力を伝えた。学生主体で継続される本活動は、大船渡市からも評価されており、地域活性化と防災意識の継承に大きく貢献している。